

# パキスタン

## <2006年の注目すべきポイント>

中国政府による資源外交は、パキスタンにおいても積極的に展開されている。2006年11月24日、胡錦濤国家主席はイスラマバードを訪問。2007年4月17日、アジズ首相は中国を訪問し、資源分野を含む包括的協力に合意。中国 Metallurgical Construction Corporation of China (MCC)は、同国最大の Saindak 銅・金鉱山の操業を支援し、Duddar 鉛・亜鉛鉱開発を着実に進めている。

### 1. 非鉄金属一般概況

パキスタンは、2006年、650件を超えるテロが発生し900人以上が死亡した。パキスタンの内政の混乱は宗教・宗派、民族、中央・地方、州・州、新興財閥・既存勢力間の対立によるところが大きい。同国は、アフガニスタン、インドとも国境問題を抱える。外国投資は低く、多大な防衛費の負担が経済の発展を阻害していた。しかし、国際通貨基金(IMF)の支援を受けて、2001年以後、外国からの投資も拡大し、グローバルマーケットの経済成長に支えられ、この5年間でマクロ経済は堅調に回復した。

政府は2000年以後、大幅にマクロ経済の改革

に取り組み、銀行の民営化を促進した。貧困レベルは2001年より10%減少し、政府は近年、着実に開発予算を増加させている。2007年度の開発予算は前年度比52%増となっている。

パキスタンは、就業者の半分が農業に従事しているが農業所得に課税できていないことや密輸の横行、納税者の納税意識の低さと脱税により税収基盤は脆弱で、2005年10月に起こったパキスタン地震再建費用などによる支出増加によって財政赤字が続いている。しかし、国民総生産(GDP)は、サービス業が牽引し、2004~2006年には7~8%の成長率を維持した。

パキスタンの GDP 成長率の推移 (2000/2001~2006/2007 年度)

年度	2000/2001	2001/2002	2002/2003	2003/2004	2004/2005	2005/2006 暫定値	2006/2007 目標値
GDP 成長率	2.0	3.1	4.7	7.5	8.6	6.6	7.0

インフレは依然として経済の最大の脅威であるが、2005年には9%以上に跳ね上がったが、2006年には7.9%と減少した。中央銀行は、経済成長を維持する一方で、2006年には利率を上げるなど、金融政策をより一層厳しく引き締め調整を行っている。

外貨準備高は、海外労働者からの送金(中東諸国からの送金が特に増加)に支えられている。しかし、輸出増を上回る大幅な輸入増(原油など資源と自動車、機械)による貿易赤字によって、経常赤字が増え、中期的に外貨準備高や GDP 成長率が鈍化すると予想されている。

現在、小規模ながら52の鉱山が開発中である。主な生産物は石灰岩、岩塩、石炭などの産業・建設用鉱物が中心となっている。Saindak 銅・金鉱山の商業生産により、鉱業部門が GDP に占める割合が増加しつつある。Balochistan 州の Duddar 亜鉛・鉛鉱山は、中国 Metallurgical

Construction Corporation of China (MCC)が建設工事を進めており生産開始は2008年度中を予定している。

Sindh 州 Thar の石炭、North West Frontier 州、Azad Jammu & Kashmir 州、北部地域(Northern Areas)の貴石、およびすべての州に分布する石材資源は、国の経済に大きく貢献すると期待されている。

2006年6月30日時点の Balochistan 州における概査ライセンスは建設・肥料用鉱物を全て含めて697件、鉱業リースは同384件が発効されている。金属鉱物資源開発では、現在、探鉱申請・活動を行っている鉱山会社は次のとおり。

Tethyan Copper 社(F/S 調査)(英/加)(2006年5月、Antofagasta および Barrick Gold 社が権益を継承)、Lake Resources NL(ボーリング調査)[豪]、Metallurgical Construction Co.(探鉱終了)[中国]、MCC China Saindak Changai(生

産) [中国]、Paige Limited(申請中) [英]、Native Resources Limited(申請中) [パ]、Benway Corp(申請中) [米]、Gulf Mineral Limited(ボーリング調査完了) [UAE]、Antofagasta Copper Co. (ボーリング調査中) [英]。

## 2. 鉱業政策の主な動き

パキスタンには 600,000km<sup>2</sup> 以上の露頭地域があると言われ、地質学的にさまざまな金属・非金属鉱床の可能性があることがわかっている。パキスタンは憲法に基づき、連邦政府は、鉱業政策を策定、基本的地質学データの作成、探鉱優先地域の選定などで責任を担う。一方、州政府の鉱物開発局 (Department of Mineral Development) は、それらの情報を経済資源として活用し、外国からの投資を誘致し、鉱業ライセンスの授与と鉱区セキュリティの管理を行っている。

連邦政府と州政府は 1995 年、パキスタンで最初の国家鉱物政策 (NMP : National Mineral Policy) を共同で制定した。州が施行するこの政策は、公平で国際的な競争力のある財政制度に従った、適切な制度と規制の枠組みとなっている。

鉱業法 (Mine Act、1923 年制定) は、石油・天然ガス及び放射性鉱物の探鉱・開発のみ政府が

所管すると規定している。それ以外は州政府が所管すると規定している。そのため、州政府は独自の鉱業法を制定し、鉱業権等の許認可、鉱山の監督権限を行っている。

国家鉱物政策 (NMP) には地域住民の雇用機会の創出、鉱業地域の持続的発展、地域産業の活性化、技術移転、中央・州政府の歳入増、インフラ整備、地質データベースの構築、環境保全の取り組みなどが示されている。また、各州には鉱物投資誘致機関 (Mineral Investment Facilitation Authority (MIFA)) やライセンス課 (Licensing Division) 及び探鉱促進課 (Exploration Promotion Division) からなる鉱物開発局が配置されている。また中央政府には首相を議長とする鉱物投資誘致委員会 (Mineral Investment Facilitation Board (MIFB)) が設置されている。鉱業権は概査ライセンス (Reconnaissance License)、探鉱ライセンス (Exploration License)、鉱物鉱床リテンションライセンス (Mineral Deposit Retention License) 及び鉱業リース (Mining Lease) の 4 種類が規定された。

## 3. 主要鉱産物の生産・輸入・消費・輸出動向

生産量は以下のとおりとなっている。

主要鉱物生産量 (Balochistan 州)

鉱物	2003/2004	2004/2005	2005/2006
クロム鉱 (t)	22,937	53,310	31,839
マンガン (t)	-	2,282	222
鉄鉱石 (t)	74,669	49,428	-
銅鉱 (t)	3,750,608	3,991,923	5,195,857
アンチモン鉱 (t)	-	30	97

Source : Ministry of Petroleum and Natural Resources

## 4. 鉱山会社活動状況

### (1) Saindak Metals Limited (SML)

同社は、パキスタン資源開発公社 (Resources Development Corporation of Pakistan) を前身とし非鉄金属及びベースメタルの探鉱、鉱山開発を手掛ける国営鉱山企業である。政府が株式 100% を所有し、石油天然資源省が所管する。従業員は 1,100 人に従業員を雇用し、2004/05 年度の売上高は 6,053 万 US\$、純利益は 240 万 US\$ となっている。6,500 万 US\$ 相当の銅ブリス

ター 1 万 5,373t (含金量 1.5t、銀量 2.07t) を生産した。

### (2) Pakistan Mineral Development Corporation (PMDC) 社

同社は、1974 年に設立され、従業員は約 2,500 名、4 炭鉱 (Degari, Sor-Range, Sharigh, Lakhra) 及び 4 岩塩鉱山 (Khewra Salt Mines, Warcha, Kalabagh, Jatta/B. Khel) を操業しており、パキスタンにおける石炭生産の 13%、岩塩

生産の 52%を占めている。2004/05 年度の石炭生産量は 44 万 7,143t、岩塩は 83 万 5,431t であった。2005 年の売上高は 8 億 171 万ルピー、純利益は 1 億 9,203 万ルピーとなっている。PMDC は、Northern Area Gold & Base Metal プロジェクトを有して、金銀銅などの探鉱も行っている。

PMDC は、Sarhand Minerals Ltd.、Lakhra Coal Development Company、Soapstone Mining Project、Orakzai 州の石炭探鉱開発プロジェクトの権益をそれぞれ、49%、50%、30%、51%保有する。

Balochistan 州の Duddar 鉛・亜鉛鉱床については、中国 Metallurgical Construction Corporation of China (MCC) 社との間で共同探査を実施してきており、MCC 社のパキスタン法人 MCC Resources Development Company Ltd (MRDL) を通じて開発中である。

## 5. 鉱山・製錬所状況

### Saindak 銅金鉱山

同鉱山は、パキスタン北西、イラン・アフガニスタン国境付近 Balochistan 県 Cangri 地区に位置し、Saindak Metals Limited (SML) 社が、中国 Metallurgical Construction Corporation of China (MCC) 社の協力を受けて創業する。同鉱山は 1995 年 11 月から 1996 年 1 月 6 日にかけて試験操業を行い、1,542t のブリストア銅を生産したが金属価格低迷等の理由により商業生産には至らなかった。その後、2000 年 2 月に政府が同鉱山の再開計画を決定し、2001 年に MMC が 10 年間のリース権を取得し、資産を MRDL に移転し、2003 年 8 月から操業を再開している。MRDL の投資額は 2,592 万 US\$となっている。

鉱山の粗鉱処理能力は 1 万 2,500t/日、銅製錬能力は 2 万 2,000t/年で、銅ブリストアの生産目標は 1 万 5,500t/年となっている。金は 4 万 7,170oz/年、銀は 8 万 8,050oz/年が目標とされる。2004/05 年度の銅ブリストア 9,036t、金 2 万 7,672oz、銀 5 万 5,346oz を生産した。South 鉱体の鉱山ライフは 19 年、埋蔵鉱量 7,800 万 t とされる。従業員 900 人を雇用している。

2005 年の鉱石生産量は 499 万 t でブリストア銅 1 万 8,723t。全量、中国へ出荷されている。

### Reko Diq 銅金鉱開発

Reko Diq 銅金鉱開発の権益は、Tethy Copper Company (TCC) が 75%、パキスタン側が 25%を所有する。

Balochistan 州 Nukundi 地区 Chagai の北 50km に位置し、これまでの F/S 調査によって、概測鉱物資源量で 12 億 7,000 万 t、銅品位 0.54%、金品位 0.24g/t、推定鉱物資源量で 11 億 4,000 万 t、銅品位 0.48%、金品位 0.31g/t と見込まれている。

これに対し、Antofagasta 社は 2005 年末、TCC に対し友好的な買収を仕掛けた。2006 年 2 月 14 日、Barrick Gold 社は Antofagasta 社による友好的買収を支援して Antofagasta 社が取得する権益の 50%を 1 億 US\$で買い取ることに合意し、これにより、両者が共同で同銅金鉱開発を手掛ける体制を表明した。

2006 年 4 月 28 日、Antofagasta 社は、TCC 無条件買収の申し入れ期間を満了し、TCC の 95.97%の株式を取得し事実上の買収を完了し、同銅金鉱開発の権益は、Barrick Gold 社、Antofagasta 社の折半となった。

### Duddar 鉛亜鉛鉱開発

Duddar 鉱床は PMDC らが発見し、推定埋蔵鉱量 1,431 万 t、亜鉛品位 8.6%、鉛品位 3.2%とされる。2005 年 4 月より建設を開始し、2007 年末の生産開始を目指している。年産 10 万 t の亜鉛精鉱(亜鉛品位 54%)と 3 万 2,000t の鉛精鉱(鉛品位 62.5%)の生産を見込んでいる。投資総額は 7,600 万 US\$。

Balochistan 政府は 100km に及ぶ道路建設に着手した。同プロジェクトは 500 人の雇用を創出し、毎年 3,500 万 US\$の歳入を国家にもたらすと期待されている。

2005 年 4 月、PMDC、MCC、MRDL、中国開発銀行(CDB:China Development Bank)の 4 者は合弁事業会社 (MDMD : MCC Duddar Minerals Development Compay Pvt. Limited) を設立し中国開発銀行が 5,400 万 US\$の資金融資を行うことで合意した。残る資金は MCC が自己調達する。なお安泰科によれば、MCC が MDMD の権益 51%を保有し、残る権益を湖南株洲製錬集団有色金属会社が 34%、湖南黄沙坪鉛亜鉛鉱会社が 15%保有する。湖南株洲製錬集団有色金属会社は中国最

大の亜鉛生産企業で、2003年は28.5万tを生産している。MCCは、先に手掛けるSaindak 鋳山の拡張事業の一環としてDuddar 鉛亜鉛プロジェクトを進めている。

安泰科等によれば、中国有色工程設計研究総院が設計した発電所が2006年9月27日に運転を開始した。中国冶金集团公司、湖南株洲製錬集团公司等が共同で鋳山開発し、中国有色工程設計総院が鋳山開発の設計を担当している。Duda 鉛亜鉛鋳山は、坑内掘りで年間鋳石処理量能力を600,000t規模と想定している。

## 6. その他トピックス

中国政府による資源外交は、パキスタンにおいても積極的に展開されている。両国は2005年4月5日、パキスタンを訪問した中国温家宝

国務院総理とアジズ首相との間で善隣友好協力条約を締結し、資源、金融、農業、税関、輸送などの分野で協力強化を確認した。

2006年11月、両国は自由貿易協定(FTA)を締結。

2006年11月24日、胡錦濤国家主席はイスラマバードを訪問し、アジズ首相と会談し、両国の互惠関係は、各分野で実務的協力を絶えず進展・発展させることが重要であるとの認識で一致。

2007年4月17日、アジズ首相は中国を訪問し、温家宝国務院総理と会談し、両国の各分野における協力関係の強化を確認するなど、一連の資源外交が継続的に行われている。

(2007.6.6/ジャカルタ事務所 池田 肇)